

1 単元名 「お話ガイドツアーへようこそ」—『アレクサンダとぜんまいねずみ』—

2 単元について

(1) 単元の概要

学習指導要領では、次のような位置づけになっている。

【第1学年及び第2学年】

1 「知識及び技能」の指導事項

- ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
- ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

2 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

c 「読むこと」(1)

- エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
- カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

本単元では、「アレクサンダとぜんまいねずみ」を読み、「お話ガイドツアー」をひらくという言語活動を設定した。本教材を通して、児童たちが作品のよさに気が付くように指導を行っていく。そのために心情変化が描かれている本を読み、それぞれの作品の魅力が伝わるよう、児童たちが本のガイド役となり本の内容を紹介していく。本の魅力が伝わる絵や絵の題名、理由をかき、ガイドツアーをひらいてたくさんの本に出会うことで、それぞれの本のそれぞれの本のよさを感じることを考える。

この物語は、人間に嫌われ一人ぼっちの生活を送っているねずみのアレクサンダと、人間にちやほやされ幸せそうに暮らしているおもちゃのぜんまいねずみであるウイリーの対照的な姿が描かれている作品である。アレクサンダはそんなウイリーを羨ましく思い、願いを叶えてくれる石をやっとのことで見つけ出すが、直前で願いを変えてしまう。

第1次では、登場人物の性格と生活の様子を理解し、物語のあらすじをとらえる。ねずみのアレクサンダとぜんまいねずみのウイリーでは、生活の様子が全く違う。2匹を対比させることで、アレクサンダがウイリーのようになりたいと願う気持ちを理解させていく。また、物語の最初と最後のアレクサンダの様子を比較する。ウイリーが捨てられていたことでアレクサンダのウイリーになりたいという思いが変わり始めたことをおさえ、アレクサンダが願いを変えた理由をとらえられるようにしていきたい。本教材は、アレクサンダが中心人物として描かれており、アレクサンダの行動から気持ちの変化を読み取ることができる。ウイリーが捨てられている場面や紫の小石を持って走る様子から、アレクサンダのウイリーへの気持ちに気付かせたい。また、アレクサンダの心情を考える際には、小道具を用意して役割演技を行うことで、児童がアレクサンダの気持ちに迫れるようにしていく。第2次には、本教材を用いてお話ガイドツアーの書き方を理解する。そして第3次では、あらかじめ教師が選書した心情の変化が描かれている本を読み、お気に入りの1冊を選ぶ。その作品のよさが伝わる「絵」「絵の題名」「選んだ理由」をかき、お話ガイドツアーをひらいていく。第2次での学習を生かして、自分で本を読み味わい、それぞれの本の素晴らしさ、面白さに気付けるように指導、助言していきたい。また、この学習を通して、日々の読書活動をより推進していくきっかけとなるようにしたい。

(2) 単元の観点別目標

知識及び技能：言葉には事物を表す働きがあることに気付き、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて工夫して音読している。

思考力、判断力、表現力等：場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。

学びに向かう力、人間性等：進んで登場人物の変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の言葉を考えようとしている。

3 研究仮説との関連

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

① 教師の目標（ねらい）と児童の目的（めあて）を明確に設定する。

教師の目標は、登場人物の心情の変化を読み取らせることである。児童は、選書された、心情の変化がある本をたくさん読み、お話ガイドツアーをひらいて話のよさを伝えるという目的に向かって学習を進めていく。本はあらかじめ心情が変化しているものを選書しておくことで、児童はそれぞれの本の登場人物の心情の変化に気付きやすいと考える。登場人物の言動に着目して、物語の始めと終わりで人物の心情がどのように変わったのかに気付かせたり、話の魅力が伝わる絵やその理由を伝え合ったりすることで、教師のねらいにせまっていけるだろう。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

本単元では、「お話ガイドツアー」をひらくことを設定した。選んだ本を読む中で、登場人物の心情がどのように変化していくのかを知り、絵や理由をかいいて紹介する。作品のよさが伝わる絵や絵の理由をかいいたり心に残ったところを交えてかいいたりして友達を読みたくなるような紹介をすることで、友達に伝えたいという気持ちや友達の本の紹介をきいてみたいという気持ちを促すと考える。ガイドツアーをする中で、たくさん本と出会い、友達からの本の紹介を聞いたり質問したりする中で、作品のよさに気付いていくと考える。

4 指導計画（全17時間扱い）

次	時	学習のねらい	児童の学習内容と評価
1 第 一 次	1	・単元全体の内容を確認し、学習の見通しをもつことができる。	・教師による大型絵本の読み聞かせを聞き、物語の内容を知る。 ・「お話ガイドツアー」の見本を見て、学習の見通しをもつ。 評 作品に関心をもち、学習の見通しをもっている。【態】
	2	・誰の台詞かを考えて音読することができる。	・新出漢字や語句の意味を確認する。 ・誰の台詞かを明確にし、音読をする。 評 音読を通して、話の大体をつかむ。【思】（音読）
	3	・話のあらすじをとらえることができる。	・挿絵と文をむすびつけながら、あらすじをとらえる。 評 あらすじをとらえている。【思】（発表）
	4	・登場人物の人物像をとらえることができる。	・アレクサンダの性格や生活について考える。 評 叙述から、アレクサンダの人物像をとらえている。 【思】（ノート）
	5	・登場人物の人物像をとらえることができる。	・ウイリーの性格や生活について考える。 評 叙述から、ウイリーの人物像をとらえている。 【思】（ノート）
	6	・アレクサンダがウイリーをどのように思っているのかを読み取ることができる。	・ちやほやされているウイリーの話聞いた時の、アレクサンダの羨ましいと思う気持ちを読み取る。 評 アレクサンダの気持ちを想像しながら読んでいる。 【思】（ノート）
	⑦	・アレクサンダがウイリーをどのように思っているのかを読み取ることができる。	・捨てられているウイリーを見た時の、アレクサンダのウイリーに対する悲しい気持ちを読み取る。 評 アレクサンダの気持ちを想像しながら読んでいる。 【思】（ノート）

	8	・アレクサンダがウイリーをどのように思っているのかを読み取ることができる。	・2匹で踊っている時の、アレクサンダのウイリーに対する嬉しいという気持ちを読み取る。 評 アレクサンダの気持ちを想像しながら読んでいる。 【思】(ノート)
	⑨	・アレクサンダの願いが変わった理由を読み取ることができる。	・アレクサンダが願いを変えた理由を考える。 評 叙述をもとに、アレクサンダの願いの変化の理由をとらえている。 【思】(ワークシート)
2 第 2 次	⑩	・作品のよさが伝わる絵をかき、その絵の理由をかきすることができる。	・作品のよさが伝わる絵を描いたり、理由を書いたりする。 ・友達と選んだ挿絵と理由を伝え合う。 評 作品のよさがわかる絵と理由をかきできている。 【思】(ワークシート)
	11	・描いた絵に合う題名をつけることができる。	・描いた絵に合う自分なりの題名をつけ、理由を書く。 評 描いた絵に合う題名をつけることができている。 【思】(ワークシート)
	⑫	・選んだ本を紹介する文を書くことができる。	・作品のよさが伝わる紹介文を書く。 評 作品のよさが伝わる文を書いている。【思】(ワークシート)
3 第 三 次	13 14 15	・自分が紹介したい本について、「お話ガイドツアー」をつくることができる。	・作品のよさが伝わる絵や理由、絵に合う題名を書く。 評 紹介したい本のよさが伝わるようになっている。 【思】(ワークシート)
	16	・「お話ガイドツアー」を読み合い、よいところを伝え合うことができる。	・「お話ガイドツアー」をひらき、選んだ本のよさを伝え合う。 ・友達の作品のよいところを見つけ、相手に伝える。 評 友達のお話ガイドツアーの良いところを見つけ、伝えている。 【思】(ワークシート)
	17	・学習の振り返りをする。	・お話ガイドツアーについて振り返る。 ・学習を通して学んだことを確認し、感想を書く。 評 学習を振り返り、学んだことや感想を書いている。 【思】(ノート)

5 本時の指導 (7/17)

(1) 目標

- ・捨てられているウイリーを見た時の、アレクサンダのウイリーに対する気持ちを読み取ることができる。

(2) 仮説との関わり

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

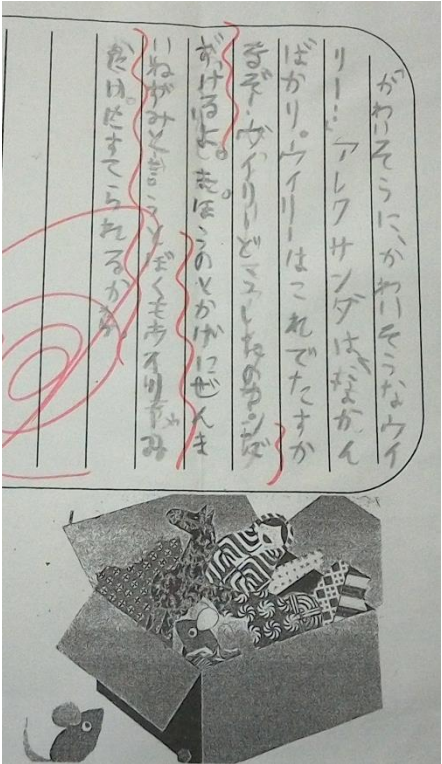
自分の考えを伝え合う際には、「アレクサンダになりきる」という視点で行う。なりきることで、アレクサンダに感情移入しやすくなり、読みが深まると考える。


なりきるための手立てとして、アレクサンダの気持ちを吹き出しに書いたり、お面を着けたり

する。吹き出しに書く際には、気持ちが書かれている部分に線を引く活動を取り入れ、本文の叙述を大切にす。全体で考えを伝え合う際には、友だちの考えのよいところはどこかを問うことで、考えを広げたり深めたりできるようにする。

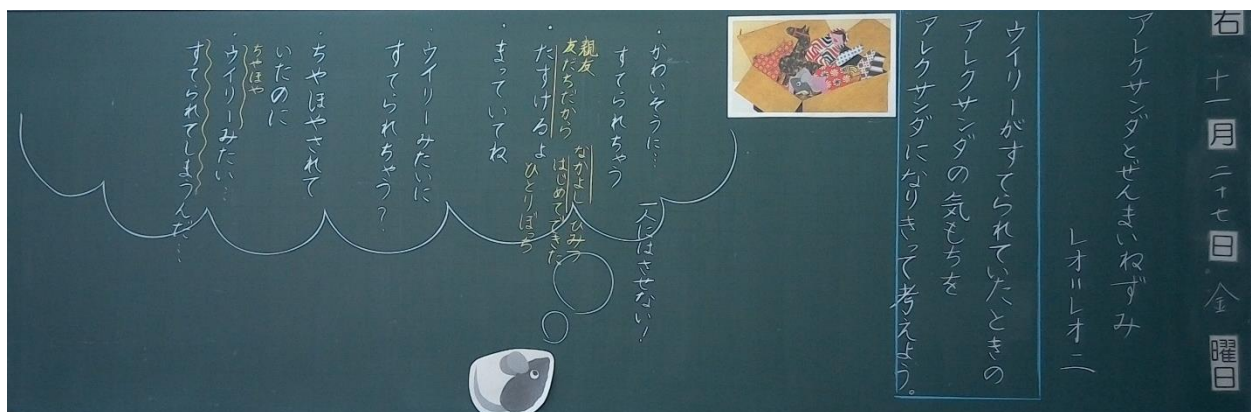
(3) 展 開

◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 実 際 の 児 童 の 様 子	時 配 () は 実 際 に か っ た 時 間
1 前時までの学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アレクサンダは、ウイリーみたいにみんなにちやほやかawaiiがられたいと思っっていることを振り返った。 ・アレクサンダはウイリーみたいにちやほやされたい。 ・かわいがられてみたい。 	3 (3)
2 本時のめあてを確認する。 ウイリーが捨てられていたときの、アレクサンダの気持ちをアレクサンダになりきって考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の発表の仕方として、役割演技をすることを伝えた。 	2 (2)
3 音読をする。 (123 ページ 10 行目～125 ページ 8 行目)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを意識して音読をするよう助言した。 	3 (3)
4 ウイリーが捨てられていたときの、アレクサンダの気持ちを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを考えやすくなるように、アレクサンダの気持ちが書かれている部分に着目させるために線を引くよう指示した。 ・かわいそうに、かわいそうなウイリー! ・びっくりして ・アレクサンダはなかんばかり ・なかんばかりという言葉の意味を確認した。 <p>◎吹き出しに書かせることで、アレクサンダになりきって考えられるようにした。</p> <p>◎アレクサンダになりきろうとすることで、アレクサンダに感情移入ができ、読みが深まるようにした。</p> <p>評 アレクサンダの気持ちになり、ウイリーが捨てられているときの気持ちをとらえて考えを書くことができる。</p> <p>【思】(ワークシート) 手 「かわいそうに、かわいそうなウイリー！」に続く台詞は何かと助言した。</p>	12 (15)

<p>5 ペアになり考えを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのいいなと感じた考えはプリントに書き足すように指示をした。 	<p>4 (4)</p>
<p>6 全体の場で話し合う。</p> 	<p>◎アレクサンダの気持ちになって伝えられるよう、挿絵、お面を用意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割演技をしながら発表するように伝えた。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイリー どうしてここにいるの？ ・かわいそうに・・・ ・たすけるからまっていてね。 ・友だちだから助けたい ・ちやほやされていたのに、すてられてしまうんだ・・・ ・ぜんまいねずみになったら、ぼくもウイリーみたいにしてられてしまうんだ。 ・どうして友だちなのに助けを求めないのだろう・・・。 </div>	<p>11 (7)</p>
<p>7 音読をする。 (125 ページ 6 行目～125 ページ 8 行目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アレクサンダが悲しい気持ちになっていること、友だちを助けたいと思っていることをおさえた。 	<p>5 (3)</p>
<p>8 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「かわいそうに、かわいそうなウイリー！」という台詞に、どのような気持ちを込めて音読をしたのかを考えさせた。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい気持ちを込めて読みました。 ・なんで捨てられてしまうんだろうという気持ちを込めて読みました。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習でわかったことや考えたことを書くよう指示した。 	<p>5 (8)</p>

(4) 板書



5 本時の指導 (9/17)

(1) 目 標

- ・アレクサンダの願いが変わった理由を読み取ることができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

① 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

学習問題を全体で確認する際に役割演技を行い、アレクサンダが願いを変えた理由を考えると、この本時の学習内容が明確になるようにする。トカゲ役の教師が、アレクサンダ役の子供に考えを変えた理由を問うことで、考えるべき内容が共有されたりアレクサンダの気持ちが考えやすくなったりすると考える。アレクサンダのお面をかぶったり紫の小石を握ったりしてトカゲの絵に話しかけるようにすることで、よりアレクサンダの気持ちになって伝えられ、アレクサンダがウイリーのことを思って願いを変えたことをとらえられると考える。また、ペアやグループで話し合う際には、友達と似ている意見や異なっている意見を意識して考えられるよう、線を引きながら聞くように指示する。

(3) 展 開

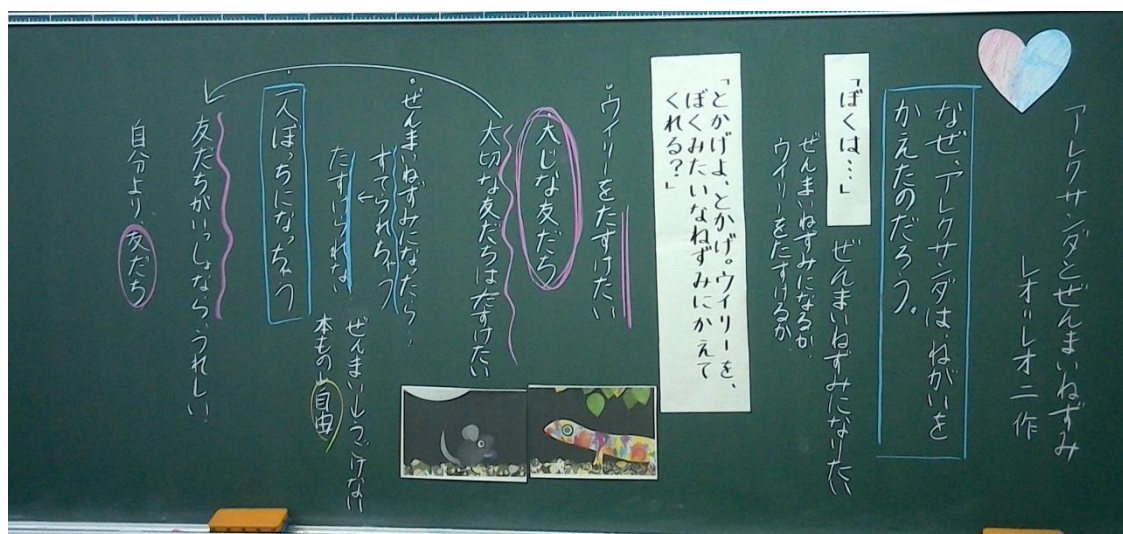
◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 実 際 の 児 童 の 様 子	時 配 () は実際に かかった時間
1 前時までの学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語のはじめのアレクサンダは、ウイリーのようになりたと思っていたこと、ウイリーが捨てられそうになったことを振り返った。 ・ハートの色を移動させながら前時までの学習を振り返り、アレクサンダの気持ちが青から赤へ変化したことを押さえ、願いが変わっていることを確認した。 ・最初の場面と対比させ、同じ挿絵だが台詞が変化していることを確認する。(挿絵や台詞の比較は行わなかった。) 	3 (10)
2 本時のめあてを確認する。 なぜアレクサンダの願いは変わったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で学習問題を確認した。 	2 (2)
3 音読をする ・123 ページ 10 行目～128 ページ 3 行目を 読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・変わった理由を考えながら読むよう指示した。 ・ようやく石を見つけて急いでいるアレクサンダの気持ちを想像して読むよう助言した。 	5 (3)
4 なぜアレクサンダは願いを変えたのか を考えて書く。 ・ウイリーが捨てられたらかわいそうだから。 ・大好きなウイリーを助きたいから。	<ul style="list-style-type: none"> ・アレクサンダの願いが変わったことがわかる文に線を引くよう指示した。 ・「ぼくは・・・」の台詞の間で、どのようなことを考えていたのか問うた。 ・教師がトカゲ役となり、アレクサンダ役の 	12 (20)

<ul style="list-style-type: none"> ・自分がぜんまいねずみになったら、ウイリーのよう捨てられてしまうと思うから。 ・ウイリーとずっと一緒にいたいから。 ・ウイリーが本物のねずみになれば、ぼくは一人ぼっちではなくなるから。 ・自分の幸せより、ウイリーが幸せになることを選びたいから。 ・ウイリーが助かることが僕の幸せだから。 ・本物のねずみは、捨てられないから。 ・足があれば好きなところに行けるし逃げられるから。 ・本物のねずみのほうが自由にできるから。 ・本当の幸せは、自由に動けることだから。 ・今の本物のねずみの自分の方が幸せだと思うから。 	<p>児童に願いとその理由を問うた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの吹き出しに、願いを変えた理由を考えて書くように指示した。 ・アレクサンダの心の中でどのような葛藤があったのかを考えるよう伝えた。 ・これまでの学習から、アレクサンダとウイリーの心のつながりを読み取り、考えを書くように助言した。 <p>評 叙述をもとに、アレクサンダの願いの変化の理由をとらえている。</p> <p>【思】(ワークシート)</p> <p>手 ワークシートに書けていない児童には、これまで学習した掲示物やノートをもとに考えが書けるように助言した。</p> <p>手 何がアレクサンダの願いを変えるきっかけになったのかを、既習をもとに考えるよう助言した。</p>	
<p>5 ペアになり、考えを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞いて、似ているところや違いを見つけながら伝え合うよう助言した。また、相手の意見を聞き、必要であれば書き加えるように伝えた。 <p>◎ペアで意見を交換し、自分の意見との類似点や相違点を考え、意見を深めた。</p>	<p>5 (3)</p>
<p>6 全体の場で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことを生かして伝えられるように助言した。 ・アレクサンダの気持ちになって伝えられるよう、紫の石、トカゲの挿絵、お面を用意した。 ・アレクサンダがウイリーを思う気持ちを大切に音読をするよう指示した。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイリーを助けたいから願いを変えました。 ・初めての大切な友達だから助けたい。 ・ぜんまいねずみだと捨てられてしまうから、かわいそう。 ・今自分がぜんまいねずみになったら、ウイリーを助けられない。 ・ウイリーがいないと、またひとりぼっちになってしまう。 ・ぜんまいねずみになれなくても、友達と一緒に嬉し。 </div>	<p>13 (7)</p>

7 次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに振り返りを記入する。 ・話のよさが伝わる絵をかき、お話ガイドツアーをひらいていくことを伝える。(時間が足りず、できなかった。) 	5 (0)
--------------	--	----------

(4) 板書



5 本時の指導 (10/17)

(1) 目標

- ・挿絵を選んだり理由を書いたりして、作品の魅力を伝えることができる。

(2) 仮説との関わり

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

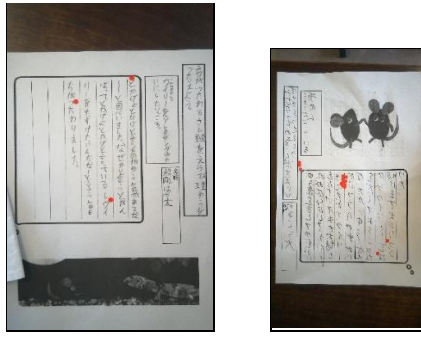
④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

選んだ挿絵を伝え合う際には、「作品の魅力が伝わるか」という視点で行う。ここで取り上げる「魅力」とは、児童の心が動いた挿絵であり、その理由を伝えられるかである。本文の叙述を大切にしながらも、自身の言葉で伝えたいとする児童の気持ちを認めていく。そのために、伝え合う際には共感できる言葉や文章にシールを貼り、友達によさを認めたり挿絵に対する自分の理由に自信をもったりすることができるようにする。対話を通して伝えることで、自分の考えを再認識したり、友達の考えを聞いて新たな考えをもったりする態度を育てていきたい。

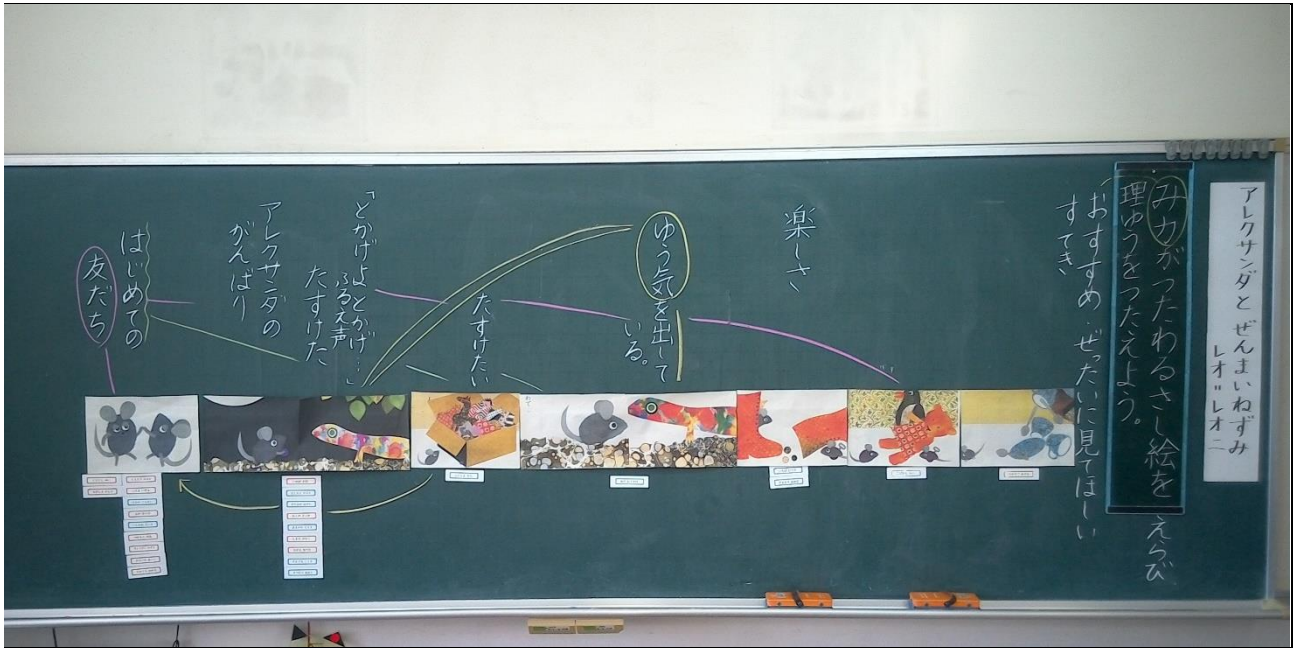
(3) 展開

◎は、仮説との関連 評(評価)手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 実 際 の 児 童 の 様 子	時 配 () は 実 際 に か っ た 時 間
1 本時のめあてを確認する。 作品の魅力が伝わる挿絵を選び、理由を伝えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力」という言葉を確認した。 ・既習が生かせるように掲示し、いつでも振り返ることができるようにした。 	2 (2)
2 挿絵を選び、思いを伝える。 ・「ウイリー！」と言うアレクサンダのうれしそうな台詞から大切な気持ちが伝わるから。	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ挿絵にネームプレートを貼り、可視化した。 	3 (5)

<p>4 挿絵を選んだ理由を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いが笑顔になるための願いを伝えたところだから。 ・「ウイリー」というアレクサンダのうれしそうな台詞から大切な気持ちが伝わるから。 ・ウイリーのためになんとかしなきゃと思っ てがんばるところがすてきだから。 ・大切な友達になる二匹がはじめて出会っ たところだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして自分の考えをもたせ るため書く時間を確保した。 ・本文の叙述を大切にして、どんな思いを 感じ取ったのかを想起するよう助言し た。 <p>評 挿絵を選んだり理由を書いたりし て、作品の魅力を伝えようとしている。</p> <p>【思】(ワークシート)</p> <p>手 個人で書く前に全体で取り上げる ことで、理由を書きやすくした。</p>	<p>10 (9)</p>
<p>5 三人組で伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>伝え合いのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力が伝わる言葉や文章を見つける。 ・見つけたところにシールを貼る。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の視点を明確にした。 ・共感的に聞くことで、それぞれの考えの よさに気付けるよう助言した。 <p>◎友達の理由で共感できる言葉や文章に シールを貼り、よさを認められるように した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>	<p>12 (15)</p>
<p>6 全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この挿絵を選んだのは、「ぼくは・・・」 から、願い事の内容を変えることになるけ ど、とても迷ってウイリーのために決めた ことが伝わるから。 ・この挿絵は「大いそぎで」とあるように願 いが叶えられる嬉しさが出ていると思 うから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵だけにとらわれず、理由を大切にす るようにした。 ・選んだ挿絵に関わらず共通する理由に ついては、魅力が伝わる重要なポイント であることをおさえた。 ・似ている考えがあっても、一人一人の理 由を大切にしよう意識した。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくは・・・」から、アレクサンダ のがんばりが強く出ているから。 ・こわかったけれど、勇気を出したと ころがいいと思うから。 </div>	<p>9 (14)</p>
<p>7 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に話すことで、選んだ挿絵がやはりい いと思った。 ・友達の理由からも魅力が伝わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合いを通して選んだ挿絵のよさを 再認識したり、友達の理由から新たな発 見をしたりして考えが深まるようにし た。 	<p>4 (0)</p>

(4) 板書



5 本時の指導 (12/17)

(1) 目標

・『アレクサンダとぜんまいねずみ』の紹介文を考え、友達と交流することができる。

(2) 仮説との関わり

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

② 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

本時では、第1次を通して読み取ったことを生かして、「お話ガイドツアー」のための紹介文を書く活動を行う。習得したことを活用する段階である。

まず、教師見本を例に活動の見通しをもたせる。どんな内容を入れることで、聞き手の意欲を刺激することができるのか、物語の世界観や魅力を伝えることができるのかを考えさせたい。この活動が、自分の読み、考えをより深める活動となるだろう。

そして、紹介文を交流する活動を通して、同じ挿絵、題名でも、紹介したい理由が異なることに気付かせ、物語の魅力やおもしろさを再発見する機会としたい。また、他者の読みを知ることで、自分の読みを客観的に捉えたり、再考したりする活動にもつなげていきたい。これらの活動が、より自分の読みを広げ、深める一助となると考える。

(3) 展開

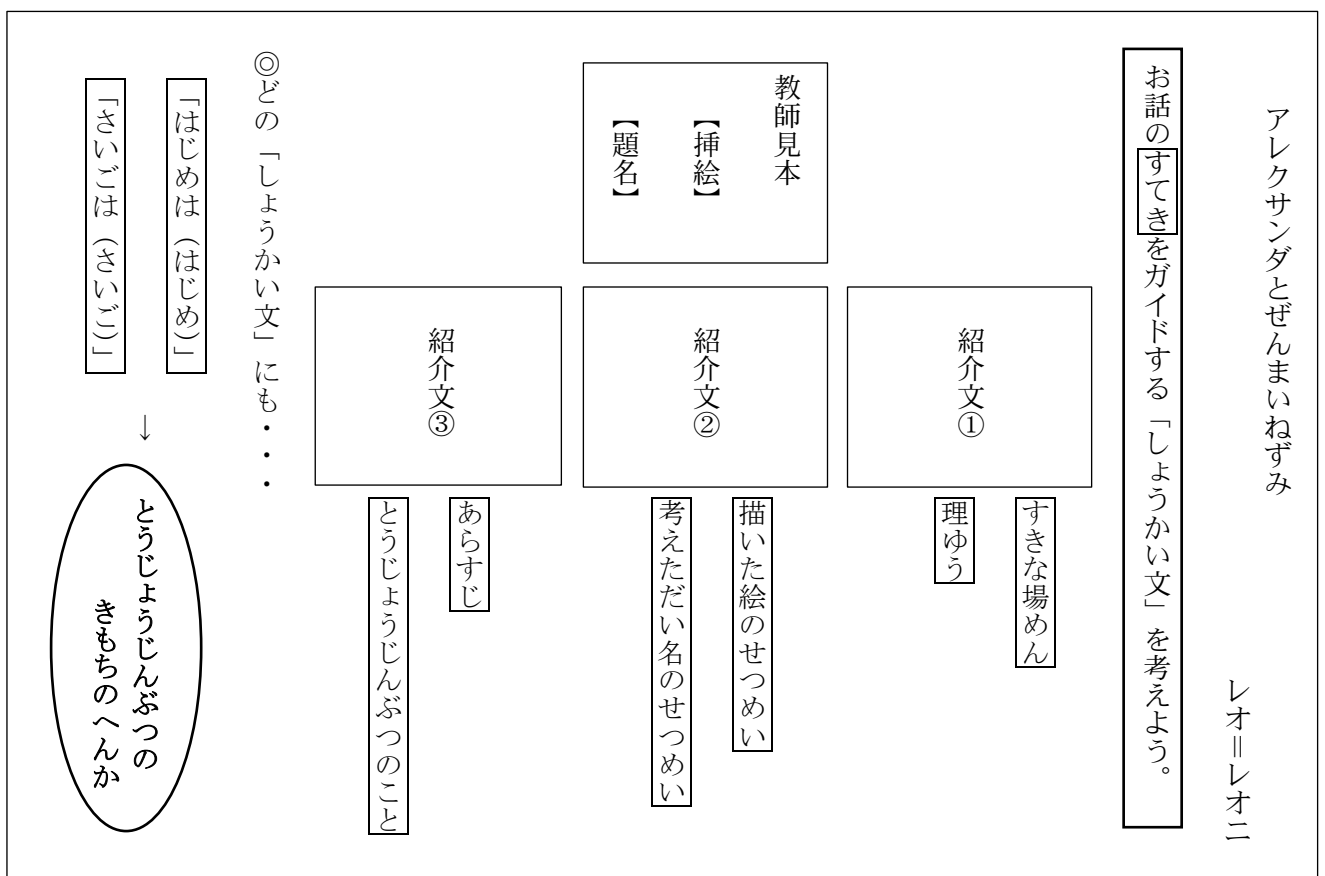
◎印は、仮説との関連
評(評価)手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 実 際 の 児 童 の 様 子	時 配 ()は実際に かかった時間
1 本時のめあてを知る。 お話の [◎] すてきをガイドする「しょうかい文」を考えよう。	・既習掲示や学習計画表を使いながら、本時の学習内容を確認した。 ・お話の「すてき」が、どんなことを指すのかを全体で確認した。	3 (7)

<p>2 教師見本から紹介文の書き方を知る。</p> <p>・3 パターンの紹介文から、どんなことが書いてあると、読む意欲が高まったり、物語の魅力が伝わったりするのかを考える。</p> <p>【パターン①】</p> <p>①本の題名, 作者名 ②考えた絵の題名 ③本のおすすめポイント <u>(好きな場面と理由+登場人物の変容)</u> ④さいごに</p> <p>【パターン②】</p> <p>①本の題名, 作者名 ②考えた絵の題名 ③本のおすすめポイント <u>(絵と題名の説明+登場人物の変容)</u> ④さいごに</p> <p>【パターン③】</p> <p>①本の題名, 作者名 ②考えた絵の題名 ③本のおすすめポイント <u>(あらすじ+登場人物の変容)</u> ④さいごに</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ・よいところ ・すてきなところ ・おすすめ ・見てほしいところ </div> <p>・自分で選んだ挿絵, それにつけた題名とその理由も使いながら, 紹介文を書くことを伝えた。</p> <p>・共通教材『アレクサンダとぜんまいねずみ』のお話のおもしろさや魅力, 登場人物の心情変化に着目して, 紹介文を書くように指導した。</p> <p>・教師見本をもとに, 紹介文にはどんな内容が書いてあるのかを確認した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ・本の名前と作者(書いた人) ・絵の題名 ・絵の説明 ・登場人物(誰がでてくるのか) </div> <p>・教師見本を提示する際, 挿絵と題名は変えず, 3種類の紹介文を提示した。その際, 書いてある内容によって, 印象が異なることに気付くよう促した。</p> <p>・どのパターンの紹介文であっても, 必ず登場人物の変容を入れて紹介文を書くことを確認した。</p> <p>・「はじめ」と「おわり」という言葉が, どのパターンにも入っていることを確認した。</p>	10 (15)
<p>3 『アレクサンダとぜんまいねずみ』の魅力が伝わる紹介文を書く。【1回目】</p> <p>・自分で「紹介文カード」を選んで書く。</p> <p>①「罫線のみ」 ②「項目提示」 ③「穴埋め形式」</p>	<p>・教師見本を例に, どんなことを紹介文に入れるとよいかを考えて書くように声をかけた。</p> <p>評 共通教材の魅力が伝わる「紹介文」を考えて書くことができる。</p> <p style="text-align: right;">【思】(ワークシート)</p> <p>手 「紹介文カード(ヘルプバージョン)」を用意し, 個々の能力に応じて選べるようにした。</p> <p>手 紹介文への取りかかりが遅い児童には, 事前に書いてある付箋を生かすように助言した。</p>	10 (8)
<p>4 小グループ(三人組)で, 現段階までの紹介文を交流する。</p> <p>【交流する時のポイント】</p> <p>①登場人物の変容が紹介文に入っているかを確認する。</p> <p>※「はじめ」, 「おわり」が合言葉</p> <p>②どんなことを入れていくとよいのかを</p>	<p>・途中の段階で交流することで, 完成意識が高まる前に, 推敲できるように助言した。</p> <p>・友達の紹介文を評価することが目的ではなく, よりよい内容にするためのアドバイスが大切であることを確認してから, 交流するように伝えた。</p>	8 (8)

<p>考えて、アドバイスする。</p> <p>5 紹介文の続きを書く。【2回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達からのアドバイスを受けて、よりよい紹介文になるように考えて書く。 <p>6 全体で紹介文を発表する。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>◎友達と紹介文を交流することで、一人一人の読みが異なることに気付き、自分の考えを広げたり、深めたりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介文の続きを書く際に、交流したことを生かして活動を再開できるように声をかけた。 ・交流した友達に、再度聞いてもらったり、もう一度アドバイスをもらったりしてもよいことを必要に応じて伝えた。 ・現時点で書いているところまでの紹介文を発表させた。その際、上手にまとまっていることに加え、友達からのアドバイスを受けて、どう再考したのかについても説明するように伝えた。 ・本時の学習を「わ・た・が・し・で」の項目で振り返るように声をかけた。 ・次回は、「お話ガイドツアー第1弾」を行うことを伝えた。 	<p>8 (5)</p> <p>5 (2)</p> <p>3 (0)</p>
---	--	--

(4) 板書



6 本単元の成果 (○) と課題 (●)

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

- ① 教師の目標 (ねらい) と児童の目的 (めあて) を明確に設定する。
- お話ガイドツアーをひらくというめあてを設定することで、3次では選んだ本の登場人物の心情変化を読み取ろうとする意欲が感じられた。また、1次や2次で学んだことを活用して、紹介文を書こうとする姿勢が見られた。
- アレクサンダの心情の変化を視覚的にとらえられるように、ハートを青 (ウイリーのようなぜんまいねずみになりたい気持ち) や赤 (ぜんまいねずみにはならないと思う気持ち) で塗り分けながら学習を進めた。それにより、本時のめあてが明確になった。
- 心情の変化が紹介文にも表れるように指導をしたが、変化には気付いていても、文章に表すことは困難だった。段階を追って指導をしていくべきだった。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。
- アレクサンダの気持ちを吹き出しに書いたり、お面を着けたりして、なりきるための手立てをとったことで、児童らは意欲を持って伝え合いに取り組むことができたと考え。全体で意見を共有する際には、言葉に抑揚をつけたり表情をつけたりして、感情移入している様子が見られ、読みが深まったと考える。
- ワークシートに友達の考えを書き込むことができている児童がいた。
- ワークシートを書く前にも役割演技を取り入れたことで、本時の学習課題が共有化され、登場人物の心情を考えやすくなった。アレクサンダのウイリーを思う気持ちや自分の願いとの葛藤が、児童の中でよく考えられていた。
- ペアで意見を交換する際には、友達の意見を自分のワークシートにも付け足すことで、多様な意見のよさを見つけたり自分の考えを広げたりすることができた。
- お話ガイドツアーで、自分の選んだ本を紹介したり友達の選んだ本の紹介を聞いたりすることで、登場人物の心情変化や本の面白さに気が付くことができた。
- 友達との伝え合いの際には、すてきな表現や新たな視点など、自分が参考にしたい考えにシールを貼る活動を行った。シールを貼ったところを中心に伝え合うことで自分の考えに自信をもったり、友達の考えを取り入れたりすることができた。
- 振り返りの視点を明確にしたこと (はっけん、なっとく、しりたい、やっぱり) で、感想だけでなく読みの深まりが見出せた。
- 共通教材『アレクサンダとぜんまいねずみ』の学習を通して、半数以上の児童が登場人物の性格や心情変化、あらすじを読み取ることができた。読み取ったことと教師見本の分析からわかったことをもとにして、一人一人が思いをもって紹介文を書くこともできた。一人一人の思いや考えがある紹介文だからこそ、伝え合うことで読みを広げたり、深めたりすることにつながったのだろう。
- 第2学年の児童実態としては、活動内容が難しかったところもあったが、全員で共通教材での紹介文を書き、ガイドツアーを行ったことで、第3次のお気に入りの1冊でも見通しをもって意欲的に学び、伝え合う姿が見られた。
- ペアで伝え合う活動では、観点が明確になっておらず、お互いの考えを伝え合い、様々な考えに触れることできなかったのではないかと考える。聞き取りやすいように伝えることや、目を見てうなずきながら聞くこと、相手の考えのよいと思うところを探しながら聞くこと等の観点を明確にする必要があると感じた。
- 自分の考えや思いをもって、充実した伝え合いを行うためには、教師見本の分析を通して紹介文のポイントをしっかりとおさえてから書かせる必要があったと考える。ポイントを明確に理解してい

ない段階では、書き出すまでに時間を要し、内容も薄くなってしまったのだと考える。

- 児童の実態を踏まえ、何を主とした活動とするのかをしっかりと考慮して行わせる必要があった。また、これまでに児童がどんな学習活動、言語活動を行ってきたのかを確認して、学習の質を高めていくことが望ましかったと考える。
- 「魅力」という言葉の解釈のずれがあり、お気に入りの場面を選ぶ児童がいた。語彙の積み重ねや実態を把握して学習を組み立てることが大切だと感じた。
- 友達の考えからよさを見つける活動では、選んだ挿絵が異なる友達との共有になったため視点がずれてしまうことがあった。同じ挿絵を選んだ友達との活動を取り入れる手立てが必要であった。